

## 「人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり」についてのアンケート結果

県では、本格的な人口減少社会が到来する中、平成 26 年 9 月に「人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり推進本部」を設置し、人口減少を見据えて滋賀の強みを伸ばし、活かすことで豊かな滋賀をつくるため、「(仮称)人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略」の策定に取り組んでいます。

この総合戦略の策定に当たって、様々なご意見を踏まえたものとするため、県政モニターを対象としたアンケートを実施しました。

★調査時期：平成 27 年 6 月

★対象者：県政モニター 398 人

★回答数：352 人（回収率 88.4%）

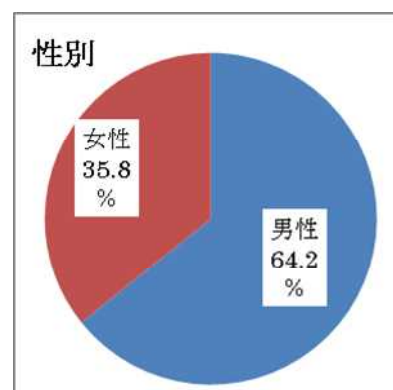
★担当課：総合政策部 企画調整課

(※四捨五入により割合の合計が 100.0%にならない場合があります。)

### 【属性】

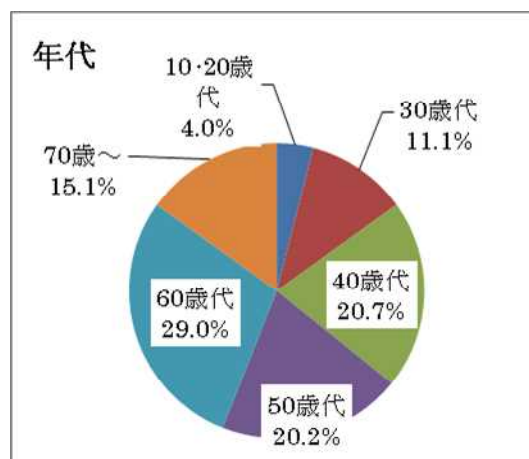
#### ◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	226	64.2
女性	126	35.8
合計	352	100.0



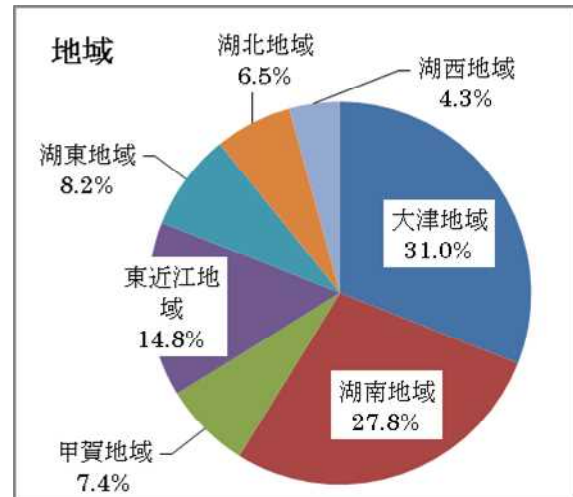
#### ◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	14	4.0
30歳代	39	11.1
40歳代	73	20.7
50歳代	71	20.2
60歳代	102	29.0
70歳以上	53	15.1
合計	352	100.0



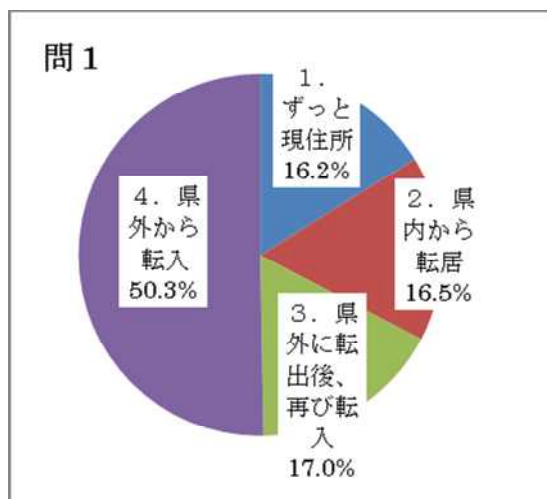
◆地域

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	109	31.0
湖南地域	98	27.8
甲賀地域	26	7.4
東近江地域	52	14.8
湖東地域	29	8.2
湖北地域	23	6.5
湖西地域	15	4.3
合計	352	100.0



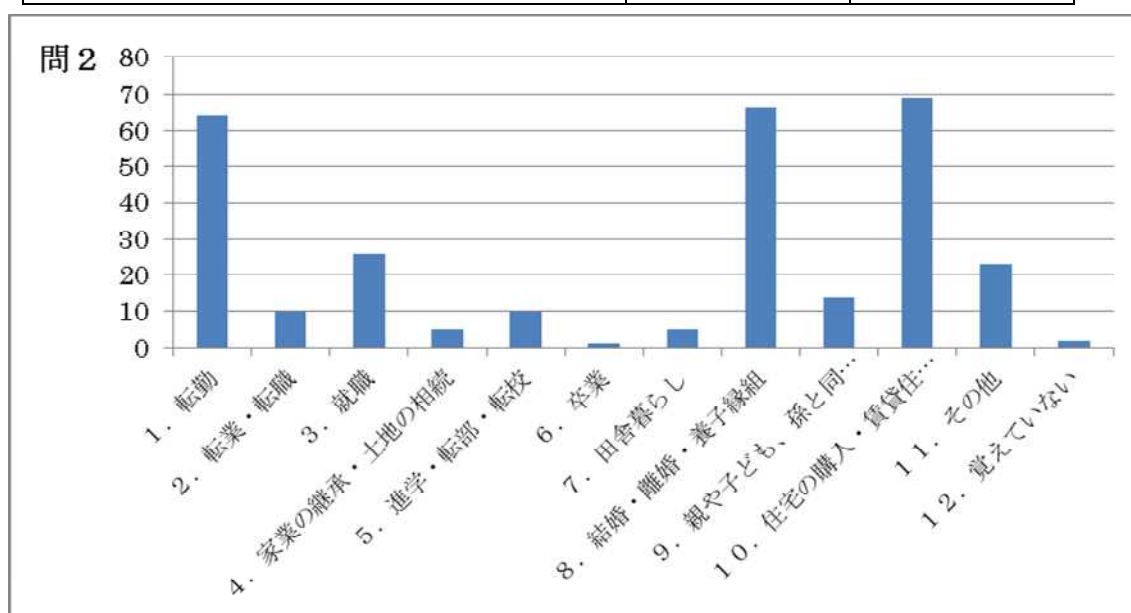
問1 あなたは、いつから現住所にお住まいですか。(回答チェックは1つだけ。n=352)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 生まれてからずっと現住所に住んでいる	57	16.2
2. 滋賀県で生まれて、県内の別の場所から現住所に転居した	58	16.5
3. 滋賀県で生まれて、県外に転出後、再び滋賀県に転入した	60	17.0
4. 県外で生まれて滋賀県に転入した	177	50.3
合計	352	100.0



問2 問1で「2. 滋賀県で生まれて、県内の別の場所から現住所に転居した」、「3. 滋賀県で生まれて、県外に転出後、再び滋賀県に転入した」、「4. 県外で生まれて滋賀県に転入した」を選択された方にお尋ねします。現住所に転居・転入された、きっかけは何でしたか。(回答チェックは1つだけ。 n=295)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 転勤	64	21.7
2. 転業・転職	10	3.4
3. 就職	26	8.8
4. 家業の継承・土地の相続	5	1.7
5. 進学・転部・転校	10	3.4
6. 卒業(就職した場合は「3」)	1	0.3
7. 田舎暮らし	5	1.7
8. 結婚・離婚・養子縁組	66	22.4
9. 親や子ども、孫と同居・近居	14	4.7
10. 住宅の購入・賃貸住宅の借り換え等	69	23.4
11. その他	23	7.8
12. 覚えていない	2	0.7
合計	295	100.0



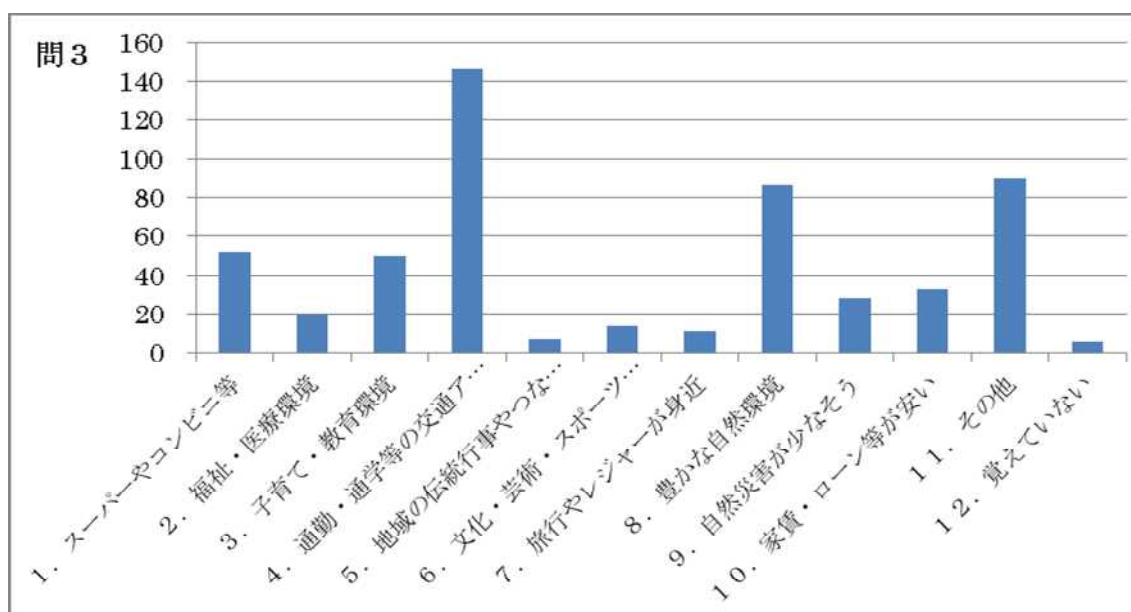
問2 「11. その他」と回答された方の意見(抜粋)

- ・1人暮らしがしたかったから。
- ・琵琶湖周辺の生まれ故郷に永住希望と親族との近居のため。
- ・趣味での有機野菜栽培。
- ・親の定年に伴い、滋賀に移り住んだ。
- ・就業している会社の社宅に転居。

問3 問1で「2. 滋賀県で生まれて、県内の別の場所から現住所に転居した」、「3. 滋賀県で生まれて、県外に転出後、再び滋賀県に転入した」、「4. 県外で生まれて滋賀県に転入した」を選択された方にお尋ねします。

転居時に、現住所を選んだ理由は何ですか。(回答チェックは3つまで。 n=295)

項 目	人数 (人)	割合 (%)
1. スーパーやコンビニ等が身近にある	52	17.6
2. 福祉・医療環境が整っている	20	6.8
3. 子育て・教育環境が整っている	50	16.9
4. 通勤・通学等の際に交通アクセスが良い	146	49.5
5. 地域の伝統行事やつながりなどに魅力を感じた	7	2.4
6. 文化・芸術やスポーツを行う環境が身近にある	14	4.7
7. 旅行やレジャーが身近で楽しめる	11	3.7
8. 豊かな自然環境が身近にある	87	29.5
9. 自然災害が少なそう	28	9.5
10. 家賃・ローン等が安い	33	11.2
11. その他	90	30.5
12. 覚えていない	6	2.0



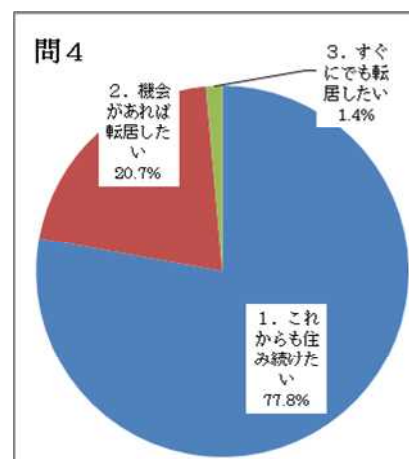
問3 「11. その他」と回答された方の意見（抜粋）

- ・少し田舎で少し都会感がいい。
- ・住宅用の土地が広く、住宅街が静かであること。
- ・子供の頃から住んでおり、愛着がある。
- ・趣味を続ける環境。
- ・知人が近くにいた。

問4 あなたは、これからも現住所に住み続けたいですか。

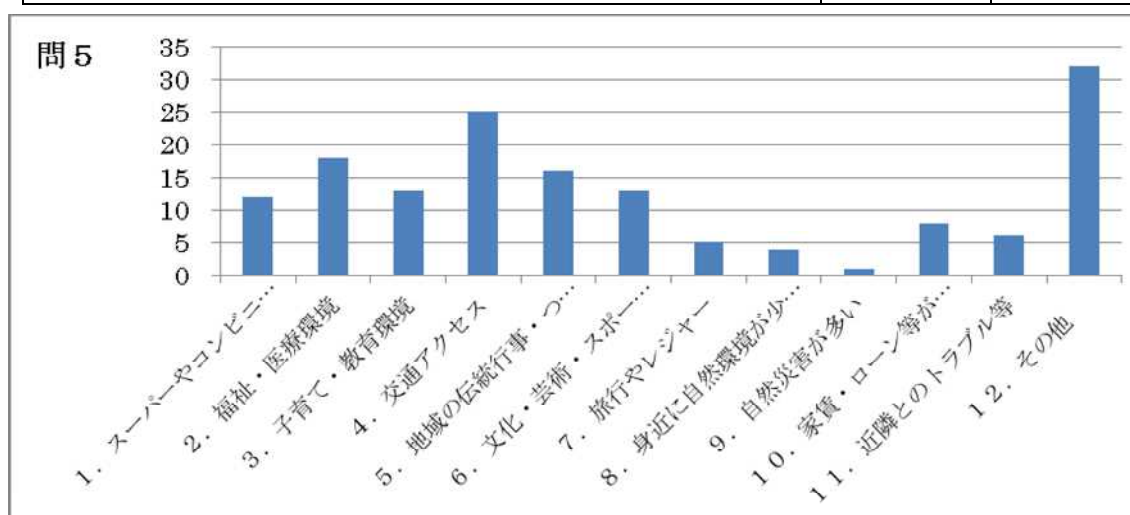
(回答チェックは1つだけ。 n=352)

項目	人数(人)	割合(%)
1. これからも住み続けたい	274	77.8
2. 機会があれば転居したい	73	20.7
3. すぐにでも転居したい	5	1.4
合計	352	100.0



問5 問4で「2. 機会があれば転居したい」、「3. すぐにでも転居したい」を選択された方にお尋ねします。転居したい理由は何ですか。(回答チェックはいくつでも。n=78)

項目	人数(人)	割合(%)
1. スーパーやコンビニ等が身近になく利用しにくい	12	15.4
2. 福祉・医療環境が整っていない・水準が低い	18	23.1
3. 子育て・教育環境が整っていない・水準が低い	13	16.7
4. 通勤・通学等の際に交通アクセスが悪い	25	32.1
5. 地域の伝統行事やつながりに不満がある	16	20.5
6. 文化・芸術やスポーツを行う環境が身近にない	13	16.7
7. 旅行やレジャーが身近で楽しめない	5	6.4
8. 身近に自然環境が少ない	4	5.1
9. 自然災害が多い	1	1.3
10. 家賃・ローン等の負担が重い	8	10.3
11. 近隣の居住者とのトラブル等	6	7.7
12. その他	32	41.0



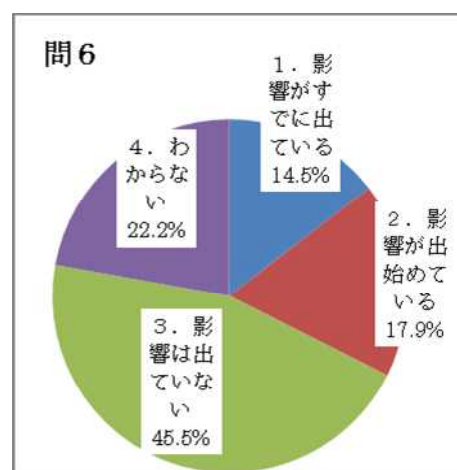
問5 「12. その他」と回答された方の意見（抜粋）

- ・女性が仕事を持って活躍する場が、限られているため。
- ・利便性にとられず、より充実した生き方を送るため。
- ・田舎過ぎてつまらない。
- ・仕事が無い。
- ・住宅が密集している。

問6 滋賀県の人口について質問します。滋賀県の人口は1960年以降増え続け、2010年時点で141万人となっていました。昨年減少に転じ、2040年の人口は131万人になるとの推計があります。また19市町中13市町では人口がすでに減少しています。

あなたのお住まいの地域では、人口減少の影響は出ていますか。（回答チェックは1つだけ。 n=352）

項目	人数（人）	割合（%）
1. 影響がすでに出ている	51	14.5
2. 影響が出始めている	63	17.9
3. 影響は出ていない	160	45.5
4. わからない	78	22.2
合計	352	100.0

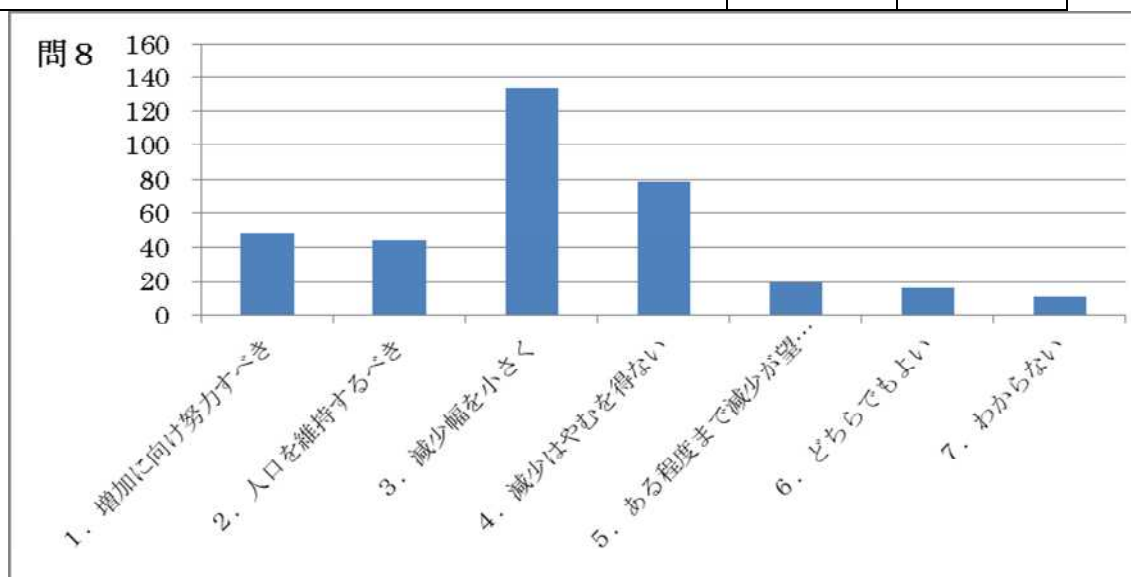


問7 問6で「1. 影響がすでに出ている」、「2. 影響が出始めている」を選択された方にお尋ねします。どんなところに影響が出ていますか。（自由にご記入ください）  
（抜粋）

- ・高齢者の夫婦での暮らしや、一人暮らしが徐々に増えつつある。
- ・小学校や中学校の学校行事の規模が小さくなってきているように感じる。
- ・地藏盆などの自治会活動での子どもの姿が少なく、活気がない雰囲気がある。
- ・自治会や地域ボランティア活動の担い手が減少している。
- ・祭りなどの伝統行事の維持が難しくなりつつある。
- ・空き家が増え、倒壊していて、非常に危険。
- ・バスの本数が減った。
- ・市の中心部ににぎやかさが戻ってこない。商店街はシャッター街になった。
- ・人口が減り、医療・福祉・教育など、あらゆる面で影響が出ている。

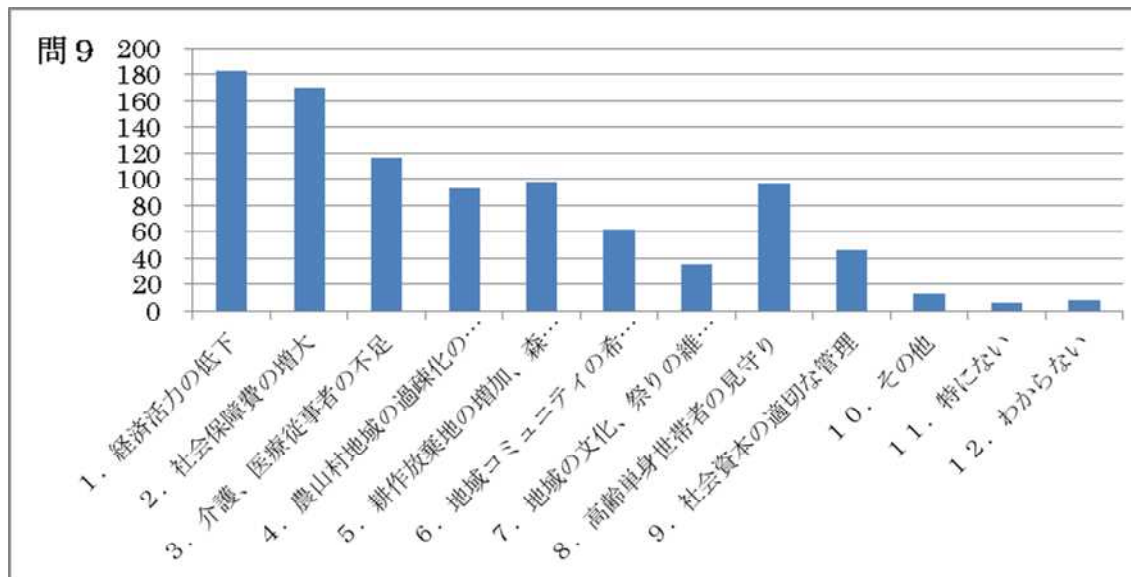
問8 あなたは、1960年以降増え続けていた、滋賀県の人口が減少していくことについて、どのように思いますか。(回答チェックは1つだけ。 n=352)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 2010年の人口(約141万人)より、人口が増加するよう努力すべきである	49	13.9
2. 2010年の人口を維持すべきである	44	12.5
3. 減少するのは仕方がないが、減少幅がより小さくなるよう努力すべきである	134	38.1
4. 減少していくのはやむを得ない	79	22.4
5. 今の人口が多すぎるので、ある程度の水準まで減少することが望ましい	19	5.4
6. 減少してもしなくてもどちらでもよい	16	4.5
7. わからない	11	3.1
合計	352	100.0



問9 人口が減少した社会では、次のようなことが課題になると考えられますが、特に気になるものはどれですか。（回答チェックは3つまで。 n=352）

項目	人数（人）	割合（％）
1. 生産力・消費の減少による経済活力の低下	183	52.0
2. 社会保障費の増大	170	48.3
3. 介護、医療従事者の不足	116	33.0
4. 農山村地域の過疎化の進展 （集落機能の低下・崩壊）	93	26.4
5. 担い手不足による耕作放棄地の増加、森林の荒廃 （琵琶湖の水源涵養機能の低下）	98	27.8
6. 地域コミュニティの希薄化、弱体化	62	17.6
7. 地域の文化、祭りの維持継承が困難	35	9.9
8. 高齢単身世帯者の見守りの問題 （病気時の介護、孤独死など）	97	27.6
9. 社会資本の適切な管理が困難	46	13.1
10. その他	13	3.7
11. 特にない	6	1.7
12. わからない	8	2.3



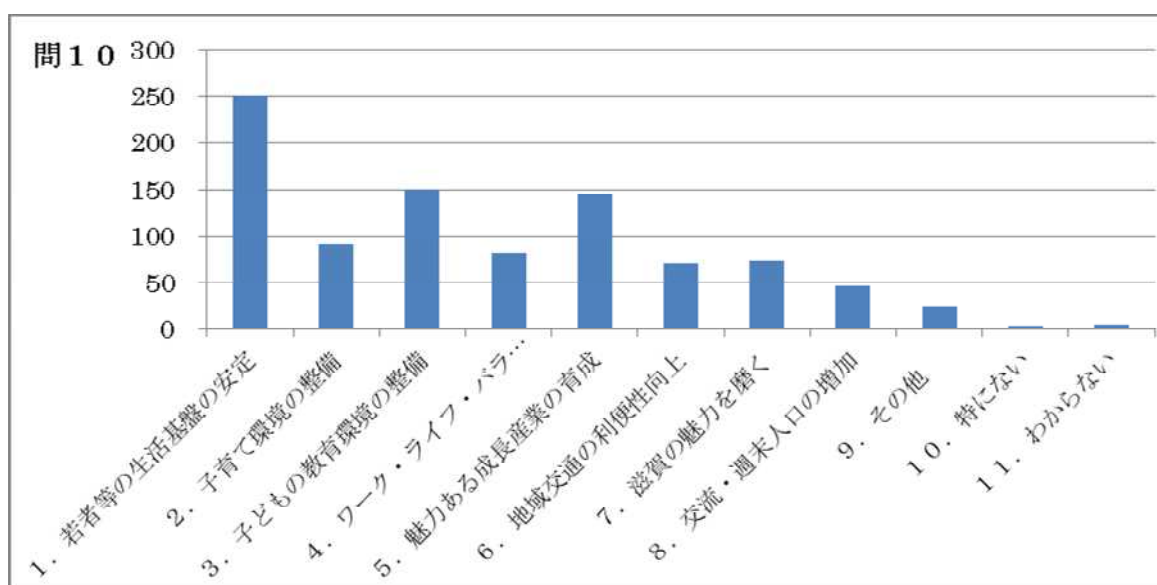
問9 「10. その他」と回答された方の意見（抜粋）

- ・昔はそれなりに暮らしていたのだから、心配することは無いです。
- ・農業従事者の世代交代期に売却益目的の土地の転売が増え、水源地などを買い占められる。
- ・地方自治体の借金。
- ・地域格差が大きくなる。
- ・社会が縮小し崩壊する。



問10 人口減少に歯止めをかけるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
 (回答チェックは3つまで。 n=352)

項目	人数(人)	割合
1. 若者や子育て世代の雇用を確保し、生活基盤を安定させること	250	71.0
2. 周産期医療の充実や保育所等の子育て環境を整備すること	92	26.1
3. 子どもが安心して健やかに育つ社会づくりを進め、教育環境を整備すること	151	42.9
4. ワーク・ライフ・バランスの推進など働き方改革をすすめること	82	23.3
5. 雇用の受け皿となる魅力ある成長産業の育成をすること	145	41.2
6. 地域交通の利便性を向上すること	71	20.2
7. 歴史資源、文化・芸術環境やスポーツ、琵琶湖や山々などの豊かな自然環境などに恵まれた滋賀の魅力を一層磨くこと	73	20.7
8. 交通の要衝としての地理的優位性を活かして交流人口・週末人口を増加すること	46	13.1
9. その他	24	6.8
10. 特にない	3	0.9
11. わからない	5	1.4

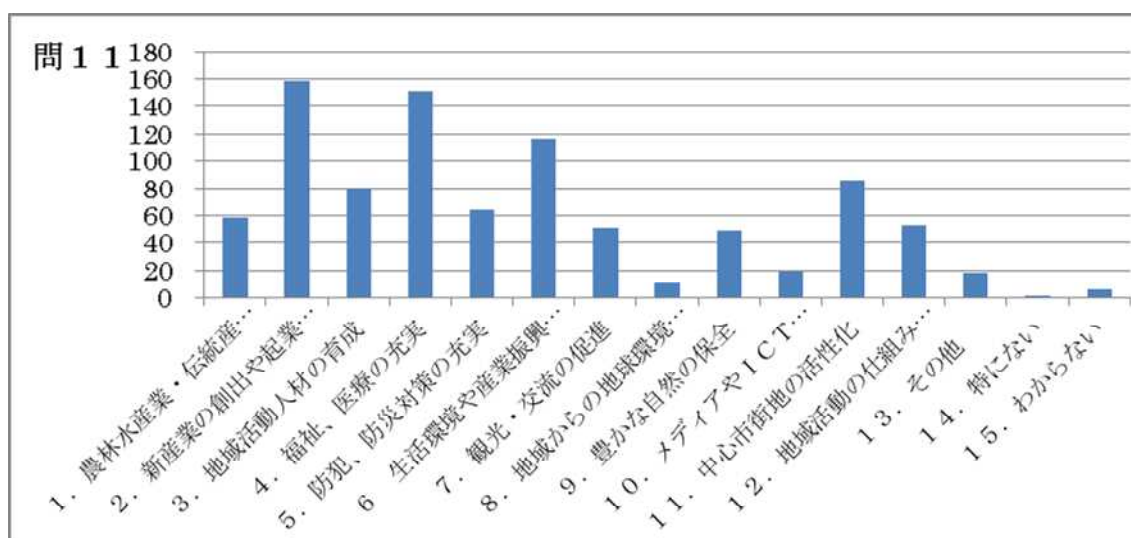


問10 「9. その他」と回答された方の意見(抜粋)

- ・子育て世帯への給付金などによる共働き世帯の減少を図ること。
- ・格差をなくすため、教育の推進、生涯学習等の見直し。
- ・京都の立地を生かした観光客の誘致。
- ・女性が生涯働ける環境を作るため、職場や家族の協力を積極的に勧めていく。
- ・同一労働同一賃金を徹底し、女性と男性の賃金格差等をなくすこと。

問 1 1 あなたの住まいの地域が活力を取り戻し、さらに活性化するために、どのような政策に期待されますか。(回答チェックは3つまで。 n=352)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 農林水産業や伝統的な地場産業などの振興	59	16.8
2. 地域に雇用を生み出す新産業の創出や起業の促進	159	45.2
3. 地域が元気になる活動の中心となる人材を育成するための特色ある教育の充実	80	22.7
4. 多様な世代がともに暮らせるための福祉、医療の充実	151	42.9
5. 安心して住み続けるための防犯、防災対策の充実	64	18.2
6. 交通、公園などの生活環境や企業誘致などの産業振興の基盤整備	117	33.2
7. 祭り、自然、街並みなどの地域資源を活かした観光・交流の促進	51	14.5
8. リサイクルや二酸化炭素の排出抑制などの地域からの地球環境対策	11	3.1
9. 豊かな自然の保全	49	13.9
10. 地域独自の情報発信のためのメディアやICT(情報通信技術)基盤の充実	19	5.4
11. 商店街の振興や街中の居住環境の向上などの中心市街地の活性化	86	24.4
12. 地域が元気になる活動に住民が参加できる仕組みの整備	53	15.1
13. その他	18	5.1
14. 特にない	2	0.6
15. わからない	6	1.7



問11 「13. その他」と回答された方の意見（抜粋）

- ・高齢化社会に向け、生活道路の拡充によって高齢者や子供が安心して街を歩ける環境が必要。そのためには自動車交通の制限をかけること。
- ・子どもを育てやすい環境を整備し、若い世代の増加を促す。
- ・一時保育や夜間保育のある保育園がほしい。
- ・生産性の高い、付加価値の高い産業を誘致、育成。農業も効率化を。

問12 その他、人口減少問題についてご意見がありましたらご自由にお書きください。  
（抜粋）

- ・地域をあげた婚活を推進すべき。
- ・適齢期の若者が、安心して結婚し子どもが生まれてくる社会の実現に取り組むこと。
- ・教育の面での充実をもっと望む。
- ・若い人、特に女性が結婚する気になる環境を整えなければと思う。
- ・幼児・学童保育などにまだまだ元気な老人を上手く活用できないか。
- ・妊婦や小さな子どもがいる主婦には、もっと優遇があってもいいと思う。
- ・公共交通機関の便を良くすることで環境問題にも取り組める。公共交通機関の利用を発展させ、高齢者も住みよい県にすることが大切。
- ・自動車や自転車に乗れなくても、一通りのことが徒歩圏内で実現されるような街づくりを。
- ・保育園の充実などの子育て環境の整備と、特に防犯面での安全対策を。
- ・それぞれの世代に魅力のある地域作りをすることが不可欠。
- ・滋賀県はレジャー施設不足。逆にレジャー以外では充実している。
- ・大阪や京都の大都市ベッドタウンとしての発展をさせることが必要。
- ・県内でも京阪神のベッドタウンとして人口増が続く地域と湖西、湖北のような人口減少が深刻な地域では全く状況が異なる。各地域の実情に応じた施策を対象自治体と連携して進めるべき。
- ・素晴らしい滋賀県を、もっと京阪神の人々に宣伝して、移住に誘い込むべき。
- ・「働く場所(雇用)があること」がいちばんの人口減少対策。福祉や環境、道路交通などは後から整備できるのではないかと思う。
- ・次代を担う若者が、進んでその土地に根づくような、負担の少ない、そして魅力ある地域社会をつくるような抜本的な施策を。
- ・県内でも働き手を求めている現場は多くあるはず。滋賀の仕事情報を積極的に発信すべき。
- ・他県から見て魅力ある施策の実施や企業誘致を。